

<超速効型インスリン製剤>

①ヒューマログ

- 他社と比較し安価であるため、第一選択とする
 - カートリッジ製剤に関して、患者の手間や注入器の使用開始後期限があることなどを考慮すると、**新規はペン型製剤が望ましい**
- 新規は原則ミリオペンを選択

②ノボラピッド

- フレックスタッチ製剤
- **身体上の理由がある場合のみ**の限定採用とする（別紙参照）
- その他のデバイスは原則フレックスタッチ or ヒューマログへ移行していく

○：採用 △：限定採用 ×：非採用

超速効型インスリン 対象薬剤	採用 現行→提案	基準
ヒューマログ注 ミリオペン/カート	○ → ○	現行どおり、超速効型インスリンの第一 選択とする。 新規は原則ミリオペンを選択する。
ノボラピッド注 <u>フレックスタッチ</u>	× → △	身体上の理由がない限り、新規処方はい ない。
ノボラピッド注 <u>フレックスペン</u>	△ → ×	使用例は 4名 のみ。 原則フレックスタッチへ変更する。
ノボラピッド注 イノレット	○ → △	身体上の理由があればフレックスタッ チ、なければヒューマログ。
アピドラ注 ソロスター	△ → △	使用例は 2名 のみ。可能な限りヒューマ ログへ移行していく。いずれ非採用へ。